

令和3年度事業報告

1 総括

長期化する新型コロナウイルス感染症の影響による不安定な経済状況の中で、少子高齢化の進展や地域社会、家族形態の変容など相互扶助機能の低下を背景に、生活困窮者の増加、子どもの貧困問題や地域からの孤立を起因とするひきこもりや虐待等複合的な福祉課題・生活課題は、益々深刻化しています。

人々の生命と健康を守るための対策により社会・経済活動の停滞が続く中で、減収や失業など生活基盤を失った市民の貸付相談は依然として後を絶たず、その数は市全世帯の7パーセントを超えました。この状況を踏まえ、うるま市社会福祉協議会としても、既存の制度やサービスの提供だけでは解決できない相談への取組みとして法外援助や福祉金庫、市民や企業等からの寄贈物品を活用したフードドライブや善意銀行による食糧・日用品の提供など、各種相談と事業の強化に努めてきました。また、コロナ禍だからこそ必要な地域の見守り活動や子どもの居場所の活動支援、地域共生社会の実現をけん引する社会福祉法人間の連携による地域における公益的な取り組み推進に向けて、各法人の課題である人材の確保と、うるま市の雇用問題を共に考える労福協働の取り組み「うるま市就労支援プロジェクト」による「うるま市福祉のお仕事就活フェア」を実施するなど、新たな活動を模索した一年となりました。

財政面では、社協会費や共同募金等必要な財源確保について、令和2年度に引き続き、取組み内容の見直しにより微増の成果を出すことができました。しかし、厳しい社会状況の中での地域福祉活動の充実や、従事する職員の安定確保や法人の基盤強化に向けて、今後も一層の自主財源の確保に努める必要があります。

こうした取り組みを行うとともに、平成31年度からの活動指針であった「第3次うるま市地域福祉活動計画」の評価を基に、行政の「第4次うるま市地域福祉計画」と一体的に「第4次地域福祉活動計画」の策定に取り組みました。

以下、令和3年度の事業実績について報告します。

(1) 法人運営事業（自主事業） 財源：社協会費・寄附金・共募配分金

① 組織運営に関する事項

目的・内容	組織のガバナンス強化、事業の透明性の向上や財務規律の強化など、社会福祉法人制度改革において求められている諸課題に対して、具体的かつ必要な対応を図り、本会の役割及び活動に対する地域住民の理解を促進します。		
過年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった		
新年度の方 向性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討		
事業（項目）	評価	方向性	実施内容
理事会及び評議員会の開催	5	4	(1) 理事会 ①第1回理事会 期日：令和3年6月8日(火)午前10時 場所：うるま市健康福祉センターうるみん2階デイサービス室 参加者：理事11名 監事1名 ※議案審議結果 全議案とも原案通り決議 議案事項 議案第1号 第10期理事及び監事候補の選定について 議案第2号 第10期理事及び監事候補の推薦について 議案第3号 評議員選任・解任委員の補充選任について 議案第4号 第2期評議員選任・解任委員の承認について 議案第5号 第9期評議員候補者の推薦について 議案第6号 令和2年度事業報告の承認について 議案第7号 令和2年度収支決算の承認について 議案第8号 介護保険事業就業規則の一部改正について 議案第9号 選任解任委員会の開催について 議案第10号 令和3年度定時評議員会の開催について ②第2回理事会 期日：令和3年7月5日（月）午後2時 場所：うるま市健康福祉センターうるみん2階デイサービス室 参加者：理事12名 監事2名 ※議案審議結果 全議案とも原案通り決議 提案事項 議案第1号 会長及び副会長の選定について

理事会及び評議員会の開催	5	4 ③第3回理事会 期日：令和3年9月21日（火） 14時 場所：うるま市健康福祉センター 2階 デイサービス室 参加者：理事12名 監事2名 ※議案審議結果 全議案とも原案通り決議 議案事項 議案第1号 第1回補正予算(案)について 議案第2号 指定特定相談支援事業運営規程一部追加について 議案第3号 育児・介護休業規則の全部改正について 報告事項 報告第1号 うるま市福祉協力会助成事業の見直しについて 報告第2号 会長の職務執行状況報告について 報告第3号 事業運営の中間報告について 報告第4号 共同募金活動（出発式も含め全体像）について ④第4回理事会 期日：令和4年2月9日（水） 午後2時 場所：うるま市健康福祉センター 2階 デイサービス室 参加者：理事11名 監事1名 ※議案審議結果 全議案とも原案通り決議 議案事項 議案第1号 非常勤職員・パートタイマー等就業規則の一部追加について 議案第2号 定款の一部改正について 議案第3号 定款施行細則の一部改正について 議案第4号 業務執行理事(常務理事)職務権限規程の設置(新規)について 議案第5号 役員及評議員の報酬に関する規程の一部改正について 議案第6号 固定資産(マイクロバス)の除却について 報告事項 報告第1号 法人監査報告について 報告第2号 会長業務報告について (1) 組織機構について(報告事項) (2) 中途人事異動について (3) 新採用職員募集について (4) 懲戒処分報告について (5) 機構改革検討委員会(作業部会)の報告について ⑤第5回理事会 期日：令和4年3月11日（金） 午後2時 場所：うるま市健康福祉センター 2階 デイサービス室 参加者：理事9名 監事1名 ※議案審議結果 全議案とも原案通り決議 決議事項 議案第1号 第2回補正予算（案）について 議案第2号 理事の解任について 議案第3号 事務局長の解任について 議案第4号 理事の選任（常任理事）について 議案第5号 事務局長の選任について 議案第6号 令和4年度事業計画（案）について 議案第7号 令和4年度当初予算（案）について 議案第8号 第3者委員会の選任（任期切れ）について 議案第9号 令和3年度第3回評議員会開催の日時及び場所について 報告事項 報告第1号 会長業務報告について (2) 評議員会 ①第1回評議員会 期日：令和3年6月24日（木） 場所：招集手続きの省略による開催 書面決議結果：評議員31名 監事2名 全員の同意 議案事項 議案第1号 第10期理事及び監事の選任について 議案第2号 令和2年度事業報告の承認について 議案第3号 令和2年度収支決算の承認について 報告事項 報告第1号 第9期評議員の選任結果について ②第2回評議員会 期日：令和3年9月29日（水）～10月12日（火） 場所：招集手続きの省略による開催 書面決議結果：評議員31名 監事2名 全員の同意 議案事項 議案第1号 第1回社会福祉事業区分資金収支補正予算について
---------------------	----------	---

理事会及び評議員会の開催	5	4	③第3回評議員会 期日：令和4年3月22日（火）午後2時 場所：うるま市健康福祉センター 3階 視聴覚室A B 参加者：評議員25名 監事2名 ※議案審議結果 全議案とも原案通り決議 議案事項 議案第1号 第2回補正予算（案）について 議案第2号 定款の一部改正について 議案第3号 役員及び評議員の報酬に関する規程の一部改正について 議案第4号 理事の解任について 議案第5号 理事の選任（常務理事）について 議案第6号 令和4年度事業計画（案）について 議案第7号 令和4年度当初予算（案）について 報告事項 報告第1号 会長業務報告について 報告第2号 固定資産（マイクロバス）の除却について
業務監査の実施	5	3	期 日：令和3年6月1日（火） 場 所：うるま市健康福祉センターうるみん（2F デイサービス室） 監 事：伊波 守・山根 晃 参加者：会長以下事務局長ほか職員
管理職会議等の開催	4	5	役員及び管理職会議（正副会長及び局長、課長） 令和3年4月1日～令和4年3月31日まで（週に1～2回開催） 場 所 健康福祉センターうるみん 開催数 30回（代表的な内容ピックアップ） 協議事項 理事会・評議員会上程議案 主要行事の実施に関すること 働き方改革の導入に向けての諸規程の整備について関係機関・団体、地域住民で構成する理事・評議員・監事により、社協運営と必要な事業を実施するため、地域の福祉ニーズや福祉サービスを利用する地域住民等の声を法人の運営に反映させた。
補助金等のうるま市への陳情・要請	4	4	うるま市・副市長意見交換会 令和4年度にむけて社会福祉法人うるま市社会福祉協議会運営補助金及び主要事業に係る展望 日時：令和4年1月19日（水）午前10時 場所：うるま市役所 出席：市長、副市長、福祉部長、福祉総務課長、福祉総務係長、社協会長、事務局長、総務課長、地域福祉課長、在宅福祉課長 要望書を提出 提出日：令和3年11月12日 提出先：うるま市（福祉総務課）
関係機関・団体との連絡調整及び委員会等の設置	4	5	①第1回法人機構改革検討委員会 ②作業部会：第1回事務局整理検討部会 日時：令和3年11月24日（水） 場所：市健康福祉センターうるみん2Fデイサービス室 ③第2回法人機構改革検討委員会 ④作業部会：第2回事務局整理検討部会 ⑤作業部会：第1回福祉バス運営検討部会 ⑥作業部会：第1回通所介護事業所検討部会 日時：令和3年12月20日（水） 場所：健康福祉センターうるみん 3F視聴覚室 第2回法人機構改革検討委員会 日時：令和3年12月20日（水） 場所：市健康福祉センターうるみん2Fデイサービス室 委員研修：「社会福祉法人の自主財源確保の方策」 講師：上地武昭氏（おきなわ地域福祉研究会会長・沖縄大学名誉教授） 第2回事務局整理検討作業部会協議内容 1 法人の財源について「講話を振り返って」 2 法人事務局の整理検討に ①支所の（有効活用）について （ア）県内合併した（南城市・八重瀬町）の事例 （イ）石川・勝連支所の状況確認（支所経費、利用頻度等） （ウ）地域説明会 ②課・係の在り方（総務課業務）について 3 今後の新規事業への取組について 4 共同募金の在り方 5 その他

関係機関・団体との連絡調整及び委員会等の設置	4	5	第1回福祉バス運営検討作業部会の協議内容 1 現状 (ア)参加状況(3年間 平成30年度資料) (イ)収支(数年比較) (ウ)住民意識 (エ)民間事業所の状況 2 課題 (ア)事業運営の継続可能性 (イ)閉鎖した場合の対処について (ウ)その他 第1回通所介護事業所検討作業部会の協議内容 1 作業部会における課題検討事項 2 与那城支所「介護保険事業」「市受託事業」 3 今後のスケジュール
評価・課題	法人機構改革検討委員会を立ち上げ、課題解決へ向けた取り組みを推進。今後においても、引き続き推進を図っていく。		

② 自主財源の確保

目的・内容	社協の財務状況を職員一人ひとりが問題として認識し、法人全体で財政難を改善する戦略が必要です。財務状況を情報共有し、各種経費の節減や社協会費等を含めた新たな自主財源確保の取り組みについて、法人機構改革検討委員会を中心とした役職員の協力体制による新たな試みを展開し、法人の健全経営に努めます。						
過年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった						
新年度の方向性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討						
事業（項目）	評価	方向性	実施内容				
社協会員加入促進 （戸別会員・賛助 会員・団体会員・ 特別会員）	5	3	今年度は、賛助会員と特別会員の依頼先の見直し整理をし取り組んだが、コロナ禍の影響もあり目標にはあと一歩届かない実績に止まった。				
			令和3年度実績				
			戸別会員	賛助会員	団体会員	特別会員	合 計
			13,290世帯 6,645,003円	467人 466,843円	32団体 160,000円	97企業 668,000円	7,939,846円
資金造成に係る関係団体等との連携	1	3	コロナ過で予定していたチャリティーコンサートがすべて中止。コロナ禍においても資金造成ができる取り組みの開拓が必要。				
寄附金募集の推進	4	5	財政の厳しい中での各所からの寄附寄贈について社協だより及びホームページ、Facebookでの発信を行い、積極的に寄附金募集につながる広報活動を展開した。				
評価・課題	令和3年度の達成率は目標値の88.2%、前年度比92%と70万円余の減収となった。次年度は新規開拓も含め、取り組み方を更に見直し、会員募集活動を展開していきたい。						

③ 広報活動の充実・強化

目的・内容	社協の福祉事業をはじめ、各種福祉団体の活動紹介や共同募金運動などについての情報発信に取り組み、市民をはじめ関係機関・団体等への周知を図り、社会福祉に関する理解を深めて行きます。			
過年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった			
新年度の方向性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討			
事業(項目)	評価	方向性	実施内容	
社協だよりの発行 (4回発行)	5	4	年4回(4月№25、7月№26、10月№27、1月№28) 各42,000部発行	
ホームページ・SNS等による情報の発信	4	3	ホームページ、Facebook等のSNSを活用し、情報の発信を随時行った。 ホームページ更新回数：33回 Facebook更新回数：75回	
うるま市広報誌等の活用	5	4	①広報うるまへの一般寄附及び香典返しの寄附等の記事掲載依頼 ②広報うるま、市ホームページ、LINEへの福祉まつり等、事業に関する広報記事掲載依頼	

うるま市社会福祉大会の実施	2	3	第17回社会福祉大会は、コロナのまん延防止措置により中止。表彰及び感謝は個人、団体合わせて96の表彰について、被表彰者の皆様に表彰状を後日お届けにて対応した。予定していた基調講演は、代替え事業として別途実施。
うるま市福祉まつりの実施	1	3	コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言の長期化を受けて第1回実行委員会の書面評決により中止が決定した。
評価・課題	社協だより及びホームページ、Facebook、Instagram等は、昨年同様に随時更新し、社協事業の情報発信に大きく貢献している。今後も広報活動を活用し地域福祉活動紹介の強化を図りたい。		

④ うるま市共同募金委員会への協力

目的・内容	地域住民が安心して暮らせる地域づくりに必要な、市民による多様な福祉活動の推進と市民相互のたすけあいを基本とした募金活動に取り組みます。		
過年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった		
新年度の方向性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討		
事業（項目）	評価	方向性	実施内容
共同募金委員会の運営	4	3	委員会は実施でしたが、地区推進委員会は書面での開催となりました。今年度は、審査委員会を新設実施し、適正に配分になるよう審査出来ました。 - うるま市共同募金委員会 第1回 委員会（書面決議） 期日：令和3年8月24日（火）：同意者：19名（委員17名、監事2名） 報告事項1 任期満了に伴う委員の選任報告について 議案第1号 令和2年度 事業報告について 議案第2号 令和2年度 決算報告について 議案第3号 令和3年度 事業計画について 議案第4号 令和2年度 資金収支予算について 議案第5号 うるま市強度棒金委員会審査委員会設置規程（案）について - うるま市共同募金委員会第2回委員会（書面決議） 期 日：令和3年9月3日（金）：同意者：19名 第7期共同募金委員委嘱状交付 議案第1号 第7期会長、副会長互選について 議案第2号 審査委員の報告と承認について - うるま市共同募金委員会地区推進委員会（全地区書面決議） 期間：令和3年9月13日（金）～9月21日（火） 具志川地区推進委員会：同意者39名 石川地区推進委員会：同意者29名 勝連地区推進委員会：同意者16名 与那城地区推進委員会：同意者10名 - 令和3年度共同募金運動出発式 期 日：令和3年10月1日（金） 午前10時 場 所：うるま市役所西棟 正面玄関前広場 参加者：市長、議長、教育部長、共同募金委員、監事、民生委員役員、関係機関、団体役員等 - 令和3年度うるま市共同募金委員会 第1回審査委員会の実施 期 日：令和4年2月21日（月） 第1期うるま市共同募金委員会審査委員委嘱状交付 議案第1号 うるま市共同募金委員会審査委員会委員長及び副委員長の互選について 議案第2号 令和3年度共同募金及び歳末たすけあい募金の助成審査について 「沖縄県赤い羽根共同募金感謝の集い」での一般篤志寄付者表彰 個人の部 2名 前堂幸枝、平川信子 企業の部 21事業所（法人5、個人事業所16） 琉球砕石、美星タクシー合資会社、平安座総合開発株式会社、有限会社具志川興産、上門設備、株式会社沖縄環境保全研究所、株式会社バイオマス再資源化センター、ルック美容室、カットインハウスIN、福福弁当、さしだ薬局、ちゅら浜食堂、玉城プロパン、ポニー美容室、玉井商店、M. S テーラー、アルゾア美咲、ピース美容室、ホテルへんぎ、新里商店、一部匿名

共同募金委員会の運営	4	3	令和3年度実績				
			募金種別	赤い羽根		歳末たすけあい	
			戸別募金	7,079,200円	【90件】	4,195,828円	【85件】
			職域募金	1,699,127円	【189件】	874,164円	【164件】
			街頭募金	40,002円	【3件】	—	
			学校募金	1,007,442円	【23校】	—	
			個人大口募金	1,056,648円	【214件】	281,810円	【13件】
			法人募金	1,739,000円	【145社】	973,000円	【60社】
			イベント募金	0円	【0】	267,500円	【1件】
			その他募金	197,443円	【29件】	26,391円	【4件】
			合計	12,818,862円	6,618,693円		
共同募金通信の発行	5	4	通信においては、例年どおり発行し紙面においてもグラフなど取り入れ募金者にわかりやすい紙面づくりに努めた。				
共同募金運動の協力支援	2	3	3密にならないような街頭募金、個人事業所等の大口まわりを自治会の協力のもと実施することができた。				
評価・課題	令和3年度は、前年度に引き続き依頼先の見直しとコロナ禍でもできる街頭募金や個人事業等の大口まわりを実施したことで、協力事業所件数・募金額とも成果を上げることができた。 達成率78.35% 前年度比101% 災害たすけあい募金は、ホームページに掲載し周知を図ったが、実績があがらなかったため、募金活用の内容などわかりやすい広報・募集を図る必要がある。						

(2) 第4次うるま市地域福祉活動計画の推進

目的・内容	市の策定する第四次地域福祉計画と一体的に取組める「第4次うるま市地域福祉活動計画」に基づき、各種事業を推進します。また、評価のための地域懇談会や、「うるま市地域福祉活動計画評価検討委員会」を設置し、地域住民、福祉団体等と協働した地域福祉の推進を目指します。				
過年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった				
新年度の方向性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討				
事業（項目）		評価	方向性	実施内容	
地域福祉活動計画の推進		4	5	市の策定する第四次地域福祉計画と一体的に取組む「第4次うるま市地域福祉活動計画」を策定した。 計画期間：令和4年度 ～ 令和8年度	
地域懇談会や、「うるま市地域福祉活動計画評価検討委員会」の設置による計画の評価		1	5	第3次地域福祉活動計画の点検・評価について、社協職員による内部評価を行った。 ※コロナウィルス感染症拡大により、基幹福祉圏域ごとの地域懇談会は実施できなかった。	
評価・課題		第3次地域福祉活動計画にて推進する予定であった計画評価に係る地域懇談会は第4次地域福祉活動計画の推進にあたっても住民計画である本計画に不可欠であり、実施に向けて進めていきたい。			

(3) 相談支援の充実と福祉教育・小地域福祉活動の強化・推進

【相談支援事業】

① ふれあい総合相談支援事業 (市受託事業)

目的・内容	うるま市地域福祉計画に基づき、住民が地域で安心して生活できるよう身近な地域で健康・福祉に関する総合的な相談に対応し、生活を支えるための必要な情報の提供や支援を行います。 また、連動する事業として赤い羽根共同募金配分金を財源とした「地域づくり支援事業（自主事業）」を実施することで、「誰もが安心して暮らせるまち」の実現に向け、地域のニーズに基づいた具体的な活動の展開を目指します。		
過年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった		
新年度の方向性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討		
事業（項目）	評価	方向性	実施内容
健康・福祉に関する総合的な相談窓口の設置	3	5	住民の身近な相談窓口として各地区（本所・支所）にその機能を置き、相談対応を行った。 - 総合的な相談窓口の設置 - 具志川地区（具志川東・具志川西）：本所 - 勝連・与那城地区：勝連支所 - 石川地区：石川支所 - 相談支援件数：延べ1,394件 - 相談支援実人数：219名 - 対象者類型延人数：1,394名 （高齢者456名、生活困窮者443名、精神障がい者173名、未診断114名、ひとり親46名、子ども45名、知的障がい者20名、身体障がい者19名、その他34名） - 相談内容：生活に必要な経費232件、日常的な支援206件、食料支援181件、生活保護178件、予防・治療・リハビリ172件、仕事114件、介護保険109件、精神障がいに関すること102件（他） - 相談の連携先：地域包括支援センター311件、民生委員・児童委員242件、自治会220件、就労・生活支援機関206件（他）
コミュニティソーシャルワーカーの配置	3	5	総合的な相談及び支援を行う窓口としてコミュニティソーシャルワークを行う専門職を配置し、住民からの相談に対応した。 - コミュニティソーシャルワーカーの配置：全5名 - 兼務（全地区統括主事）：1名 - 専従（各地区担当）：4名 - 具志川地区（具志川東・具志川西）：2名 - 勝連・与那城地区：1名 - 石川地区：1名
公的サービスと地域のインフォーマルサービスとの組み合わせ及び分野を超えた総合的なサービスの提供	3	4	関係機関や学校、自治会、民生委員、地域団体等との連絡調整及びネットワークづくり（多職種連携を目的とした地域カンファレンスや地域包括支援センターとの連絡会等）を行った。 - 関係機関等とのケース検討会議：64回 - 関係機関等との連絡会の開催及び参加：48回 - 個別相談等から地域の活動へつないだ：1回 - 災害や緊急時の対応について、自治会や民生委員、関係機関と共に調整を行った：10回
地域の社会資源や要支援者の把握	3	5	NPOや福祉団体、ボランティア、企業、関係機関の活動に関する情報の収集、自治会のイベントをとおした社会資源の把握や繋がりづくり、自治会や民生委員等からの相談による要支援者の把握を行った。 - 関係部署からの相談、調整、連携による要支援者の把握：43回 - 自治会や民生委員、隣近所、その他地域団体等からの要支援者の把握：290回 - 地域活動やイベントをとおした社会資源の把握や繋がりづくり：8回
評価・課題	コミュニティソーシャルワーカーの安定雇用が厳しく、毎年の離職者発生による人員の確保と資質の確保が課題となっている。コミュニティソーシャルワーカーは地域に密着しつつ、各地の総合相談支援と他職種との連携、小地域（行政区毎の）福祉活動などの住民の支え合いの仕組みづくりに関わる重要な役割を担っており、令和4年度に向けて、主管課との相談を踏まえ、処遇改善による人材の確保と安定雇用を図りつつ、基幹福祉圏域ごとの総合相談支援と関係機関等との連携体制の構築・強化を目指したい。		

② 生活福祉資金貸付事務事業 (県社協受託事業)

目的・内容	低所得世帯、高齢者世帯、障がい者世帯を対象に必要な資金を他から受けることが困難な世帯に対し、資金の貸付と必要な相談支援を行います。		
過年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった		
新年度の方向性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討		
事業(項目)	評価	方向性	実施内容
必要な資金の貸付と相談支援	5	4	低所得世帯、高齢者世帯、障害者世帯を対象に必要な資金を他から受けることが困難な世帯に対し、資金の貸付けと必要な相談支援を行った。 - 相談件数：5,513件(通常貸付724件、特例貸付4,789件) - 通常貸付 資金種別貸付進達件数：緊急小口資金 5件 福祉資金 1件 教育支援資金 2件 - 特例貸付 資金種別貸付進達件数： (新型コロナウイルス感染症の影響による緊急貸付) 緊急小口資金 1,314件 総合支援資金【初回】1,450件 総合支援資金【延長】568件 総合支援資金【再貸付】1,292件 計4,624件(令和2年度比86.6%) - 滞納世帯への対応及び償還の支援 ※コロナウイルス感染症拡大により、償還相談会及び訪問指導の実施なし - 担当職員研修会への参加 3回 - 民生委員・児童委員との連携 貸付制度における民生委員・児童委員の役割と制度についての理解と協力を求め、連携して取り組んだ。
評価・課題	特例貸付受付期間の延長により、コロナ感染対策の影響のピークであった令和2年度比の86%ではあったものの、相談は引き続き後を絶たない状況が続いている。加えて、令和2年度には特例貸付の影響ではなかった通常貸付は例年並みに相談件数が増加している。コロナ禍の長期化に伴う貸付受付期間延長への対応と併せ、なお生活再建の見通しが立たない貸付終了世帯への一層の相談支援の強化が必要。		

③ 福祉金庫貸付事業 (自主事業)

財源：社協会費・寄附金

目的・内容	低所得世帯に対し、生活維持のため必要な資金を応急的に貸付けることにより、生活意欲の助長促進を図るとともに、必要な相談支援を行います。		
過年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった		
新年度の方向性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討		
事業(項目)	評価	方向性	実施内容
必要な資金の貸付と相談支援	4	4	緊急度が高く、生活福祉資金の貸付に該当しないなど、切迫した状況にある世帯へ資金の貸付と必要な相談支援を行った。 貸付件数：5件(当初見込50件の10%)
評価・課題	特例貸付受付期間の終了による相談者増加を見込み、計画していたが、特例貸付受付期間の延長に伴い、本事業の利用者は5名にとどまった。新年度以降についても特例貸付受付期間を注視しつつ、必要世帯の相談に迅速に対応できるようにしていく。		

④ 法外援助事業 (自主事業)

財源：社協会費・寄附金・共募配分金

目的・内容	公的制度や、その他必要な援護を受けることが困難または緊急に援護を必要とする低所得世帯(者)等に対し、緊急かつ一時的な食費や生活費、医療費等を給付することで、当面の生活を確保し、関係機関とともに相談者の生活再建の支援を行います。		
過年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった		

新年度の 方向性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討		
事業（項目）	評価	方向性	実施内容
生活援助	4	3	公的制度や、その他必要な援護を受けることが困難または緊急に援護を必要とする低所得世帯（者）等に対し、緊急かつ一時的な食費や生活費、医療費等を給付することで、当面の生活を確保し、関係機関とともに相談者の生活再建の支援を行った。 ・給付件数： 1件（当初見込50件の2%）
災害援護	5	3	申請なし
評価・課題	特例貸付受付期間の終了による相談者増加を見込み、計画していたが、特例貸付受付期間の延長に伴い、本事業の利用者は1名にとどまった。新年度以降についても特例貸付受付期間を注視しつつ、必要世帯の相談に迅速に対応できるようにしていく。		

⑤ うるま市権利擁護センター事業 （市受託事業）

⑥ 日常生活自立支援事業 （県社協受託事業） ※ 事業内容は同じ

目的・内容	認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者等のうち判断能力が不十分な方が地域において自立した生活が送れるよう、利用者との契約に基づき福祉サービス利用援助を行います。また、権利擁護に関する普及及び啓発活動を実施し、対象者が地域で安心して生活できるよう環境づくりに努めます。		
過年度 評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった		
新年度の 方向性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討		
事業（項目）	評価	方向性	実施内容
権利擁護センターの体制、機能の充実	2	5	【受入れ利用者数】 ・市権利擁護センター事業：当初目標値70名→実績40名（契約2名、解約2名） ・日常生活自立支援事業：当初目標値40名→実績38名（契約3名、解約4名）
専門員の配置と支援員の担い手の確保	3	5	【専門員の配置】 ・市権利擁護センター事業：当初目標値3名→実績3名 ・日常生活自立支援事業：当初目標値2名→実績1名 【支援員の配置】 ・当初目標値25名→実績21名
評価・課題	受け入れ利用者数については、新型コロナウイルス感染症拡大による福祉事業所の面会制限等や専門員1名の退職に伴う体制の変更などで新規契約が進められず、目標達成できなかった。利用者の待機解消のため専門員1名が増員できたが、初任者での新規対応への即応は難しく、研修会への参加やケース会議開催等をとおして、各専門員の資質向上に取り組み、必要な受け入れを円滑に行える体制構築を目指したい。また、待機者リストの見直しを行い、その緊急性や必要性に基づいた利用者受け入れ態勢を整備する。専門員の負担軽減のため、各地区の生活支援員の増員と研修体制を整備する。		

⑦ 緊急預かり支援事業 （自主事業） 財源：社協会費

目的・内容	権利擁護事業（日常生活自立支援事業）や成年後見制度の利用が必要且つ緊急的に通帳や印鑑等の預かりが必要と判断される要支援者を対象に、緊急預かり支援を実施し、その権利を擁護します。		
過年度 評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった		
新年度の 方向性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討		
事業（項目）	評価	方向性	実施内容
通帳、印鑑等の預かり保管	3	4	目標数値6件としていたが、17件の実績件数となる。 （内訳：障害3件、介護14件）
評価・課題	令和2年度の実績件数23件から減少しているが、目標値の6件には及ばなかった。権利擁護の観点、管理リスクを鑑み預かり期間が長期化しないよう評価しながら支援していく。（高齢者の緊急預かりが増加しており、独居や家族の支援力低下等、成年後見等を見据えた支援が必要である。）		

⑧ 障害者相談支援事業 (市受託事業)

目的・内容	障がい者がその有する能力に応じ自立した生活が送れるよう、生活相談支援を行うとともに、社会参加活動や創作活動支援をとおして、自立意欲を高め社会復帰と社会参加の促進を図ります。		
過年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった		
新年度の方向性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討		
事業(項目)	評価	方向性	実施内容
相談支援専門員数	2	5	相談支援専門員2名配置を希望していたが、令和3年度は増員とはならなかった。
相談者数(実人員)	5	5	相談実人員は120名と前年度122名とほとんど変わらない実績となったが、相談延べ件数では818件から1,082件と増加している。
評価・課題	相談内容の複雑化により相談件数は増加傾向となっている。相談員1名体制での対応では難しいことから新年度は増員し2名体制としたい。		

⑨ 障害者地域活動支援センター事業 (市受託事業)

目的・内容	障がい者がその有する能力に応じ自立した生活が送れるよう、生活相談支援を行うとともに、社会参加活動や創作活動支援をとおして、自立意欲を高め社会復帰と社会参加の促進を図ります。		
過年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった		
新年度の方向性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討		
事業(項目)	評価	方向性	実施内容
利用者数(名)/1日	2	5	来所者数1日20名を当初目標値としていたが、緊急事態宣言等を受け、利用者数1日平均8名となった。一方で11名が新規利用登録をし、社会参加活動や創作活動支援を行った。
評価・課題	福祉サービスの充実により、他市町村の支援センターも利用者数の減少傾向との事であるが、今後は医療機関や計画相談事業所等への周知強化を行い、多くの支援を必要とする障がい者の利用につなげたい。		

⑩ 指定特定相談支援事業 (自主事業)

⑪ 指定障害児相談支援事業 ※ 事業内容は同じ

目的・内容	障がい者(児)の自立支援を目指し、利用者のニーズに応じた適切なサービス等利用計画を作成し、必要な支援を行います。		
過年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった		
新年度の方向性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討		
事業(項目)	評価	方向性	実施内容
指定特定(者)	4	3	利用契約者数170名(当初目標値200名 達成率85%)
指定障害児	4	3	利用契約者数65名(当初目標値70名 達成率93%)
評価・課題	相談支援専門員の確保の難しさ、給付費(収入)より事業費(支出)が大きく財政的に事業の維持継続が厳しい状況にあるなど見直しが必要であるが、社協が行う指定特定相談支援事業はうるま市におけるセーフティーネット的な意味合いが大きく、行政との話し合いが必要と思われる。		

【福祉教育・小地域福祉活動関係】

⑫ ボランティアセンター事業 (市補助事業)

目的・内容	ボランティアセンターを設置し、ボランティアコーディネーターを配置することで、市民のボランティア活動に関する理解と関心を高め、ボランティア活動の育成・支援を行います。また、各種活動に参加しやすい体制の整備の支援など、活動をとおり地域における福祉コミュニティの形成を図ります。		
-------	--	--	--

過年度 評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった		
新年度の 方向性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討		
事業（項目）	評価	方向性	実施内容
ボランティア相談・登録・調整・斡旋 団体等の組織化・活動に関する支援	3	5	ボランティア活動に関する相談に対応し、地域活動が円滑に行えるようコーディネートを行った。また、地域でのボランティア活動に関する情報の収集・ボランティアの発掘、ボランティア活動や助成金等に関する情報の提供、広報・啓発・調査・研究を行い、市民のボランティア活動や地域活動の活性化に取り組んだ。 ・相談件数：65件（令和2年度比：159%） ・団体登録数：81団体（内、新規登録18団体（174名）） （令和2年度比：117%） ・個人登録者数：94人（内、新規登録22名） （令和2年度比：200%） （登録者数：延べ3,921名 令和2年度比105%） ・ボランティア依頼：19件（令和2年度比：172%） ・斡旋：30件（令和2年度比：91%） ・ボランティア活動に関する情報の収集、提供：95件 （令和2年度比：173%） ・ボランティア募集に関する広報：206件 （令和2年度比：129%）
福祉教育の推進	3	5	学校と地域をつなげる視点に立った福祉学習プログラムや体験学習を提案し、地域の人材や資源を発掘することで、多様な学びの場を作った。
ボランティア活動保険の加入促進及び加入手続き	3	3	地域住民がボランティア活動に安心して取り組めるよう、ボランティア保険の周知・啓発を行い、加入促進並びに加入手続きを行った。 ・ボランティア活動保険：33件（440名） ・ボランティア行事用保険：5件（237名）
フードドライブ及び善意銀行の受付	3	5	企業・団体・個人などから、食料や物資などの寄贈を受け、必要としている世帯・団体等へ配布を行った。また、フードドライブや善意銀行について周知・広報を行い、企業・団体・個人等との連携を強化した。 ・フードドライブ：88件 （ろうきん具志川地区推進委員会、上門工業、美原乗馬クラブ、イオン具志川、ダイニングBAR Mana、うるま青年会議所、しきな農園、えんまんランドリー、カーブス石川支店、お菓子御殿、四樹の会、三和ハウス、児童館、沖縄ヤクルト、オリオンビール、丸安プロパン、中部農林高等学校、やなえもん、その他企業・個人） ・善意銀行：26件（マスク、生理用品、子ども服、介護用オムツ、子ども用オムツ、電子ピアノ、絵本、子ども用品、電動ベッド、寝具）
評価・課題	コロナウイルス感染症拡大の影響により様々な社会活動が停止する中ではあったが、市民活動やSDGsへの関心は高まっており、ボランティア登録団体、個人ともに近年にない増加があった。一方で、活動への依頼・斡旋・情報提供件数などは前年度比からは大きく上回ったものの、長期に亘る緊急事態宣言の影響からコロナ禍以前には大きく及ばない状況であった。 また、フードドライブ、善意銀行も前年同様、たくさんの企業・市民からの寄贈により、コロナ禍の影響も相まって困窮し、支援を必要とする多くの世帯に食糧・物品を提供できた。新年度以降も厳しい社会状況は続くことから、これらの取組みが発展持続できるよう継続して情報発信を行っていく必要がある。		

⑬ ボランティア育成活動 （自主事業） 財源：共募配分金

目的・内容	地域の中で安心して暮らし続けることができるよう、一人ひとりができる“お互いさま”の活動を提案しながら「いつでも・どこでも・誰でも」活動に参加できる体制や地域の繋がりを強化し、安心して地域活動が行える体制づくりに取り組みます。また、ボランティア活動や学習の機会をととして社会の「困った」ことに気づき、地域の一人ひとりが主体的に取り組める地域づくりを行います。
過年度 評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった
新年度の 方向性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討

事業（項目）	評価	方向性	実施内容
福祉学習プログラムのコーディネーター及び講師派遣（小・中・高校）	4	5	市内小学校・中学校・高等学校等を対象に社会福祉への理解と関心を高め、人間性豊かな福祉のまちづくりに資する事を目的に福祉学習を行った。 福祉講話やアイマスク・点字体験等とおして、児童生徒へ「気づき」や「行動」についての学びの場を提供した。また、地域に暮らす障がいのある方など、地域の方を講師として派遣した。プログラムの開発や地域の人材の発掘など、福祉学習の強化・推進に取り組んだ。 ・実施回数：16校（延べ62回） 当初目標値19校（84%） （沖縄県警察学校、彩橋小学校、伊波小学校、勝連小学校、兼原小学校、川崎小学校、具志川小学校、城前小学校、高江洲小学校、田場小学校、中部農林高等学校、天願小学校、中原小学校、南原小学校、与那城小学校、沖縄アミックスインターナショナル小学校） 令和2年度比：133%（延188%） ・講師派遣：11回（9校） （盲導犬ユーザー、車いすマラソン選手、視覚障害者三線演奏、パラトライアスロン選手）
ボランティア体験推進	3	5	協力ボランティア団体：5団体 申込者：18校（105名） 実施に向け準備を進めたが、コロナウイルス感染症拡大の影響による緊急事態宣言により「夏のボランティア体験」は中止。 代替事業として、夏のボランティア体験申込者（中高生）に対し、「コロナ禍でも出来るボランティア活動アイデア」「ボランティア活動フォト」「夏のボランティアキャラクターデザイン」の募集を行った。 応募者：14名
ボランティア団体への活動費助成	3	5	地域の課題解決に向け、一層の充実や継続が必要な活動、先駆的でユニークな活動・調査研究を行っているボランティア団体に対して助成を行い、市内のボランティア活動の活性化、地域福祉の推進を図った。 ・3万円コース 5団体 志林川花咲爺会 たんぼぼの会 ゆいゆいまーる、 リーディングサービスいしかわ相思樹の会 千bees(チビーズ) ・10万円コース 4団体 グレイスキッチンHOPE LOVE 認知症と伴に＋友として安心して暮せるうま市をつくろう会 JASS Business Schoolシナジー 「地域に緑と花を」イッペー会
ボランティアサロンの設置及びボランティアの活動支援	3	5	ボランティア活動の拠点や交流・協働の場として、ボランティア団体や個人等が主体的かつ気軽に利用できる場としてボランティアサロンを設けた。 週2回（水曜日、金曜日） 5月から9月 緊急事態宣言のため閉所。コロナ禍の影響で、サロン開所後も団体、個人とも利用控えにより本格稼働には至らなかった。 ・ボランティア講座の開催（初めてのLINE講座） ①「LINEの機能を知ろう」 令和3年10月6日（水）14時～16時 ②「LINEでボランティア情報を得る方法を学ぼう」 令和3年10月13日（水）10時～12時 ③「LINEでボランティア活動を発信する方法を学ぼう」 令和3年10月27日（水）10時～12時
ボランティア連絡協議会の活動支援	3	5	市内のボランティア団体及び個人ボランティアで構成されているボランティア連絡協議会の活動を効果的に推進するため、定例会や役員会等の運営を支援した。

評価・課題	福祉学習プログラムのコーディネートについては、コロナ禍以前には届かなかったが、昨年の12校から16校の小学校に福祉学習を行った。また、コロナ対策の下でソーシャルディスタンスなどの観点から、人数調整しつつの分散実施で、1校あたりの対応回数が増加したことにより延回数は大幅に増加。新年度以降の本格稼働に向けて、実施校の要望も聞きつつ、地域コーディネーター等との連携による効果的な福祉学習プログラムの提案ができるよう検討していく必要がある。 また、ボランティア団体助成事業では、登録ボランティアの増加とともに、地域に密着した市民活動に取り組む新たな団体の申請が多くなっており、それぞれコロナ対策など工夫しながら、継続して地域課題に取り組んだ。それぞれの助成団体が新年度以降も継続して活動に取り組めるよう支援していきたい。
-------	---

⑭ 地域づくり支援事業（自主事業） 財源：共募配分金

目的・内容	地域において、支援を必要とする人々の生活を支えるために、住民の主体的な活動は大きな力となります。出前講座等をおして、活動の広がりや充実を図りながら、支援を必要とする世帯の日常的な見守りや、引きこもりなど課題を抱えた方の居場所づくりをはじめ地域の支えあいの環境整備を、ボランティア団体や関係機関・団体、企業等と協働して取り組みます。		
過年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった		
新年度の方 向性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討		
事業（項目）	評価	方向性	実施内容
小地域福祉ネットワーク活動の推進 （住民福祉活動支援）	4	5	地域住民が支援を必要とする世帯を日常的に見守り、支えていくことについて研修し、みんなで話し合い、考え、小地域福祉ネットワークの確立と活動の充実を目的に出前講座を実施した。また、住民福祉活動の支援として小地域福祉活動グループの支援を継続して行った。 ・出前講座の実施：5地区 ①みどり町3・4丁目自治会（福祉部） 1回目 令和3年10月7日（木）10時～12時 2回目 令和3年10月27日（水）14時～15時 ②曙区自主防犯パトロール隊 1回目 令和3年10月15日（金）19時～20時 2回目 令和3年11月19日（金）19時～20時 ③塩屋区自治会 1回目 令和3年7月25日（日）11時～12時 2回目 令和3年10月10日（日）11時～12時 ④川田区自治会（自主防災会） 1回目 令和3年11月17日（水）19時30分～20時30分 2回目 令和3年12月8日（水）19時30分～20時30分 ⑤南風原自治会（南風原見守り隊） 1回目 令和4年2月25日（金）18時～19時 2回目 令和4年3月11日（金）18時～19時 ・小地域福祉活動グループ定例会への参加：49回 ・地域活動支援及び相談：102回 ・各種団体との協働、参画、事業実施：155回
うるま市地域見守りネットワーク事業	3	5	うるま市内の民間事業者等と見守りに関する協定を締結し、協定事業者が業務の範囲内で地域住民の異変に気付いた場合は、その状況を社協へ連絡・相談を行い見守り体制の構築を図った。見守りの体制強化や要支援者の早期発見等に繋がった。 ・地域見守りネットワーク活動新規協定締結：4事業所 （沖縄銀行安慶名支店、沖縄銀行赤道支店、沖縄銀行石川支店、沖縄銀行与勝支店） ・全協定締結数：44協定（72事業所） ・地域見守りネットワーク協定先からの相談件数：2件 ・地域見守りネットワーク連絡会 1回
地域福祉活動報告冊子の作成	4	5	地域団体の活動や取り組みを冊子をおして知ること、市内における見守りや支えあい活動の活性化を図ることを目的とし、地域福祉活動報告冊子の作成を行った。 ・部数：300冊 ・配布先：自治会関係者、民生委員、関係機関等

ふれあい・いきいきサロンづくりの支援と助成（ふれあい・いきいきサロン（茶〜びら）事業）	2	5	住民同士のつながりを基盤とした住民による多様な居場所づくりの推進と活性化を目指し、ふれあい・いきいきサロンの活動支援を行った。 ・登録団体：18団体 ※コロナウイルス感染症拡大の影響により、高齢者等のサロン活動を自粛する状況があったため、新規の登録はなかった。
子どもの居場所づくりの支援と助成（ふれあい・いきいきサロン（茶〜びら）子どもの居場所づくり支援）事業）	3	5	住民同士のつながりを基盤とした、子ども達が安心して生活できる地域の居場所づくりの推進と困窮世帯の孤立防止や子ども達の健やかな成長を地域で支える環境づくりを目指し、活動費助成や活動支援を行った。 ・登録及び支援団体：8団体（当初目標値：9団体88.9%）
学習支援の場の推進	1	5	子どもの居場所づくりを行う地域団体20か所に、その活動支援やボランティアのつなぎ支援など行ってきたが、緊急事態宣言等の影響もあり、夏休みの寺子屋活動などはほとんどの地域で自粛となった。
多様な住民のためのフリーサロンづくりの支援	1	5	緊急事態宣言によりサロン閉所等もあり、推進できず。
評価・課題	コロナ禍の影響で、活動報告会や居場所活動などは停止せざるを得なかったが、その中でも地域の防災・見守活動の必要性を地域とともに考えていった結果、出前講座は当初目標の5地区に行い、住民福祉活動のきっかけづくりができた。 見守りネットワーク事業では、相談件数は2件であったが、協定事業所の迅速な連絡のおかげで屋内にて重度の熱中症で倒れていた高齢夫婦の一命をとりとめる等、大きな成果を見ることができた。 子どもの居場所づくり支援については、当初目標値には若干届かなかったが、サロン登録団体8団体を含む市内活動団体20余のネットワークづくりも進めることができた。新年度以降も継続して強化推進していきたい。		

⑮ 生活支援体制整備事業（市受託事業）

目的・内容	地域における高齢者の生活支援体制の整備を推進するため、ボランティア等を担い手とした生活支援サービスの資源開発、サービス提供主体間のネットワーク構築を行う生活支援コーディネーターを各日常生活圏域に配置します。また、住民を中心とした多様なサービス提供主体で構成する生活支援体制整備事業協議体を設置し、住民が主体となった支え合いの仕組みづくりに関する情報共有や連携、協働による地域資源開発を推進します。																			
過年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった																			
新年度の方向性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討																			
事業（項目）	評価	方向性	実施内容																	
地域の高齢者支援のニーズと資源の見える化及び問題提起	2	5	コロナ禍の影響で集いの場などの利用制限やコーディネーターの活動が自粛となり、地域住民と接触する機会が減ったため、主に自治会長や書記へ地域の現状・課題等の情報収集を行った。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基幹福祉圏域</th><th>勝連</th><th>与那城</th><th>具志川1</th><th>具志川2</th><th>石川</th><th>合計</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計</td><td>255</td><td>204</td><td>132</td><td>186</td><td>118</td><td>895</td></tr> </tbody> </table>				基幹福祉圏域	勝連	与那城	具志川1	具志川2	石川	合計	計	255	204	132	186	118	895
基幹福祉圏域	勝連	与那城	具志川1	具志川2	石川	合計														
計	255	204	132	186	118	895														
地縁組織等多様な主体への協力依頼等の働きかけ	2	5	協議体の集まりの場がコロナ禍の影響により制限されたため、自治会等への協力依頼をすることが減り、モデル事業に指定した地域を重点的に働きかけた。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基幹福祉圏域</th><th>勝連</th><th>与那城</th><th>具志川1</th><th>具志川2</th><th>石川</th><th>合計</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計</td><td>168</td><td>366</td><td>106</td><td>78</td><td>62</td><td>780</td></tr> </tbody> </table>				基幹福祉圏域	勝連	与那城	具志川1	具志川2	石川	合計	計	168	366	106	78	62	780
基幹福祉圏域	勝連	与那城	具志川1	具志川2	石川	合計														
計	168	366	106	78	62	780														
関係者のネットワーク化	3	5	情報交換会や定例会等の集まりの場が、コロナ禍の影響により制限されたため、自立支援ケア会議のみオンライン参加。モデル事業は人数を制限して開催した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基幹福祉圏域</th><th>勝連</th><th>与那城</th><th>具志川1</th><th>具志川2</th><th>石川</th><th>合計</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計</td><td>91</td><td>91</td><td>31</td><td>35</td><td>44</td><td>292</td></tr> </tbody> </table>				基幹福祉圏域	勝連	与那城	具志川1	具志川2	石川	合計	計	91	91	31	35	44	292
基幹福祉圏域	勝連	与那城	具志川1	具志川2	石川	合計														
計	91	91	31	35	44	292														

生活支援サービスの担い手の養成及びサービスの開発	2	5	サロン等実施の働きかけや見守り等の担い手の養成を実施したが、コロナ禍の影響で集いの場などの利用制限やコーディネーターの活動が自粛となり、地域住民やボランティア団体と接触する機会が減ったため、実施数は減少した。 <table><tr><td>基幹福祉圏域</td><td>勝連</td><td>与那城</td><td>具志川1</td><td>具志川2</td><td>石川</td><td>合計</td></tr><tr><td>計</td><td>15</td><td>18</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>34</td></tr></table>	基幹福祉圏域	勝連	与那城	具志川1	具志川2	石川	合計	計	15	18	0	1	0	34
基幹福祉圏域	勝連	与那城	具志川1	具志川2	石川	合計											
計	15	18	0	1	0	34											
地域の支援ニーズとサービス提供主体の活動のマッチング	2	5	地域住民のニーズ把握やサービス提供主体のマッチングを実施したが、コロナ禍の影響で集いの場などの利用制限やコーディネーターの活動が自粛となり、地域住民やボランティア団体、事業所への接触する機会が減ったため、実施数は減少した。 <table><tr><td>基幹福祉圏域</td><td>勝連</td><td>与那城</td><td>具志川1</td><td>具志川2</td><td>石川</td><td>合計</td></tr><tr><td>計</td><td>13</td><td>113</td><td>1</td><td>9</td><td>1</td><td>137</td></tr></table> ◎第一層協議体の開催 日時：令和4年3月24日(木)14時 24名参加 内容：第2層生活支援コーディネーターの活動報告、介護支援ボランティアポイント制度事業について ◎第二層協議体の開催 ☆具志川第1地区 ・みどり町5、6丁目自治会 日時：①令和3年10月13日(水) 5名参加、②11月17日(水) 9名参加 ③12月15日(水) 5名参加 *14時～15時 内容：①見守り、防災マップ作成 ②他自治会と意見交換会 ③訪問時のマップ確認 ☆具志川第2地区 ・塩屋自治会 日時：①令和3年12月21日(火)10時 14名参加 ②令和4年2月23日(水) 19時 6名参加 内容：①救急キッドの説明 ②見守り隊結成へ ☆石川地区 ・旭区自治会 日時：①令和3年11月11日(木) 15名参加 ②12月9日(木) 12名参加 *10時半 内容：①講話「第二の人生と自治会活動」上地武昭氏 ②前回の講話を基にグループワーク ☆勝連地区 ・浜自治会 日時：①令和3年6月22日(火) 14時 3名参加 ②7月13日(火) 14時 3名参加 ③9月21日(火) 10時 4名参加 ④12月13日(月) 14時 6名参加 ⑤令和4年2月10日(木) 10時 6名参加 内容：①一人暮らし等気になる世帯の把握と名簿作成 ②名簿からマップの作成 ③災害時の避難場所経路の確認 ④マップ作りの必要性について ⑤避難場所までの案内板の設置 ・内間自治会 日時：①令和3年11月22日(月) 14時 2名参加 ②12月1日(水) 14時 7名参加 ③12月8日(水) 14時 10名参加 内容：①ノルディックウォーキング教室開催について ②③ノルディックウォーキング教室 ☆与那城地区 ・お宝自慢「与那城地区自治会の作品展示会」 日時：令和3年12月1日(水)～12月17日(金) 内容：高齢者の活動の見える化、情報発信 ・宮城自治会、上原自治会 日時：令和3年12月10日(金) 14時 内容：活動状況や困りごとについて	基幹福祉圏域	勝連	与那城	具志川1	具志川2	石川	合計	計	13	113	1	9	1	137
基幹福祉圏域	勝連	与那城	具志川1	具志川2	石川	合計											
計	13	113	1	9	1	137											
評価・課題	コロナ禍で自治会の活動自粛や高齢者の集いの場の利用制限により、地域周りや情報交換会を積極的に行う事ができなかったが、人数制限や感染症対策を徹底することでモデル事業については開催できた。 また、オンラインによる自立支援ケア会議や様々な主体との協力体制や新たな取り組みに繋がる研修をととしてのコーディネーターの資質向上が必要。																

(4)福祉サービスの充実

【児童福祉活動】

① 児童福祉週間イベント・こいのぼり掲揚式による啓発活動（自主事業）

財源：共募配分金・寄附金

目的・内容	児童の健全育成活動や児童問題への関わりをとおして、地域で支える支援に取り組みます。		
過年度 評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった		
新年度の 方向性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討		
事業（項目）	評価	方向性	実施内容
児童福祉週間イベント・こいのぼり掲揚式による啓発活動	2	3	コロナウイルス感染症拡大に伴う蔓延防止重点措置期間のため、集合型イベントは中止。代替えとして、各地区の民生委員児童委員協議会と協働し、市内の保育園を訪問し、啓発用チラシ等を配布した。
評価・課題	前年度に引き続き、集合型イベント実施は中止とし、民生委員児童委員との保育園訪問を行った。社会状況を注視しつつ、今後の活動目的や実施方法については民生委員児童委員協議会と協議しながら見直しも含めて検討していく。		

【高齢者の支援】

①ミニデイ推進員ふれあい交流会（自主事業）

財源：共募配分金

目的・内容	ミニデイサービス活動は、高齢者等の生きがいづくり、社会参加などの生活の活性化を図る上で重要な役割を果たしており、各地域においては創意工夫を凝らした活動を展開しています。そこで、各地区で活動している福祉推進員を中心に意見交換会（交流）や研修する機会を設け、地域福祉向上支援とミニデイ活動の更なる充実強化を図ります。		
過年度 評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった		
新年度の 方向性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討		
事業（項目）	評価	方向性	実施内容
ミニデイ推進員ふれあい交流会	1	5	これまで集中開催で行ってきた交流会であるが、新型コロナ感染症拡大防止の為、分散型での実施を検討していたが、急激な感染拡大を受け中止となった。
評価・課題	実施方法について、オンラインやDVDなどの資料を配布するなど検討が必要。		

② 生きがい活動支援通所事業(地域型)：ミニデイサービス（市受託事業）

目的 内容	高齢者の生きがいと社会参加を促進し、社会的孤立の解消、自立生活の助長及び要介護状態への予防（フレイル予防）や口腔ケアなどの健康増進を図りつつ、感染対策を講じながら気になる参加者の現状把握に務め、福祉推進員と情報を共有し協働で活動を実施、主体的に運営する福祉推進会を育成・支援して事業の推進を図ることを目的とします。		
過年度 評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった		
新年度の 方向性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討		

事業（項目）		評価	方向性	実施内容							
生きがい活動支援 通所事業（ミニデ イ）		4	5	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていくことが出来るよう福祉環境の整備と要介護状態への予防を図るため、コロナ禍でも工夫を凝らして活動が出来ている推進会の活動紹介や情報提供することで、地域資源の活用など地域における支え合い活動を支援しコーディネートを行った。							
				※ 実施回数及び参加者数：延べ（59推進会）							
					具志川	石川	勝連	与那城	合計		
				実施区数	29	15	5	10	59		
				実施回数	204	103	23	63	393		
				延参加者数	3,704	1,572	586	1,188	7,050		
				参加者平均（人）	127	104	117	118	117		
				※ 対象者及び推進員数比較							
					具志川	石川	勝連	与那城	合計		
				対象者数	2,557	954	363	939	4,813		
				対象者平均（人）	88	63	72	93	316		
				推進員数	1,147	618	223	249	2,237		
				推進員平均（人）	39	41	44	24	37		
				評価・課題		コロナ禍が続き、長期間の活動休止は高齢者の心身の機能低下が危惧され、本事業の趣旨（介護予防・フレイル予防）を踏まえ、感染症対策を徹底したうえで、自主活動の実施を段階的・計画的に59地区が地域の状況に合わせながら活動が再開できた。					

③ ふれあいコール事業(市受託事業)

目的 内容	独居高齢者に対し定期的に電話をかけることにより、その健康状態の確認と心のふれあいの提供及び緊急事態発生時の迅速な通報等を行います。		
過年度 評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった		
新年度の 方向性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討		
事業（項目）	評価	方向性	実施内容
ふれあいコール事業	5	5	一人暮らしの高齢者を対象として、電話による定期的な健康状態の確認、心のふれあいや緊急時の迅速な通報等を行った。 実 施 日：原則 毎週 月・水・金 利用実績：4,192名 実 人 数：43名（具志川26名、石川6名、勝連5名、与那城6名） コール員：2名
評価・課題	利用者との心のふれあい、通話不通時の緊急連絡先やケアマネージャー等への迅速な対応が出来た。		

④ 介護保険事業（指定居宅介護支援事業）（自主事業） 財源：介護保険

目的 内容	高齢者が要介護状態等にあっても、可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことが出来るように配慮し、利用者の選択に基づき、適切な保険医療サービス及び福祉サービスが多様な事業者から、総合的かつ効果的に提供されるよう、公正中立な居宅介護支援を行います。		
過年度 評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった		
新年度の 方向性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討		
事業（項目）	評価	方向性	実施内容
指定居宅介護支援事業	5	4	介護保険利用者が日常生活を営むために、適切なサービスが利用できるよう利用者本位のプランを提供した。
指定居宅介護支援事業（利用状況）	3	4	居宅介護支援事業 利用者数：65 名 介護予防支援事業 利用者数：6 名 介護予防ケアマネジメント事業 利用者数：3 名
評価・課題	利用者本位のプラン提供に向け家族・多職種連携を図り提供できた。		

⑤ 介護保険事業（指定通所介護事業）（自主事業） 財源：介護保険

目的 内容	デイスサービスに通う利用者が、可能な限り居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、また、その家族の身体的、精神的負担の軽減を図るために必要な日常生活上の世話及び機能訓練等の介護その他必要な援助を行います。		
過年度 評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった		
新年度の 方向性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討		
事業（項目）	評価	方向性	実施内容
指定通所介護事業	5	4	介護保険利用者が在宅において、日常生活を営むために適切なサービスが利用できるよう利用者本位のサービスを提供した。
指定通所介護事業 （利用状況）	2	5	通所介護事業 利用者数：39名 実施日数：309日 《市受託事業》 介護予防・日常生活支援総合事業（通所型サービス） 利用者数：6名 実施日数：309日
評価・課題	利用者本位のサービス提供に向け家族・多職種連携を図り提供できた。		

⑥ 介護保険事業所の機能充実と介護職員の専門性の向上（自主事業）

財源：介護保険、利用料

目的 内容	安心して業務にあたるための教育機能の充実と働きやすい職場環境づくりに取り組み、質の高いサービス提供を図ります。		
過年度 評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった		
新年度の 方向性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討		
事業（項目）	評価	方向性	実施内容
研修研究及び連絡 会の実施、必要な 知識・技能習得の ため研修等へ参加 派遣	5	4	安心・安全にサービス提供が出来るように個々に合った必要な知識、技術の習得、職員の倫理観や人権意識の醸成に努めた。 ・4月16日（金）うるま市介護支援専門員うるま支部（Zoom） 「介護保険改正について」13:00～15:00 参加者2名 ・5月13日（木）中部徳洲会オンライン研修（Zoom） 「新型コロナワクチン接種について」15:00～16:00 参加者1名 ・5月28日（金）うるま市介護支援専門員うるま支部（Zoom） 「介護保険改正について」13:00～16:00 参加者3名 ・6月18日（金）沖縄県介護支援専門員定時社員総会（Zoom） 「記念講演 介護保険法改正」13:00～16:00 参加者2名 ・7月6日（火）沖縄県介護支援専門員スキルアップ研修（Zoom） 「明日から使えるやさしいZoom講座」18:00～19:30 参加者2名 ・7月8日（木）中部地区在宅医療・介護連携推進事業（Zoom） 「新型コロナウイルスワクチン接種について」18:00～20:00 参加者1名 ・7月27日（火）うるま市介護支援専門員うるま支部（Zoom） 「介護と仕事の両立において産業CMと居宅CMとの連携」 13:30～16:00 参加者1名 ・8月17日（火）うるま市介護支援専門員うるま支部（Zoom） 「明日から使える優しいZoom講座」3回目 18:00～19:30 参加者2名 ・8月24日（火）あやはし苑居宅（Zoom） 「困難事例検討」9:00～10:00 参加者2名 ・8月25日（水）沖縄県介護支援専門員スキルアップ研修（Zoom） 「介護予防マネジメント」14:00～17:00 参加者2名 ・8月26日（木）中部地区医師会（Zoom） 「入退院支援多職種研修」19:00～20:30 参加者1名 ・9月14日（火）沖縄県医師会（Zoom） 「高齢者施設等におけるコロナ対策」 19:00～20:30 参加者1名

研修研究及び連絡会の実施、必要な知識・技能習得のため研修等へ参加派遣	5	4	・9月28日(火)うるま市介護支援専門員うるま支部(Zoom) 「命の授業(折れない心を育てる)」14:00～17:00 参加者1名 ・9月30日(土)沖縄県介護支援専門員スキルアップ研修(Zoom) 「介護施設・事業所における自然災害発生時の(BCP)の基礎」 13:00～16:35 参加者1名 ・11月5日(金)中部保健所 食品衛生責任者陽性講習会 9:00～17:00 参加者2名 ・11月24日(水)沖縄県介護支援専門員スキルアップ研修(Zoom) 「令和3年度 介護報酬改定Q&Aと介護保険最新情報」 10:00～13:00 参加者2名 ・1月14日(金)うるま市介護長寿課(Zoom) 「避難行動要支援の避難支援に関するセミナー」 15:00～16:00 参加者2名 ・1月18日(火)うるま市介護長寿課(Zoom) 「成年後見人制度の職務」10:00～12:00 参加者2名 ・2月3日(木)第18回沖縄県介護支援専門員研究大会(Zoom) 12:00～17:00 参加者1名 ・ケアマネ受験対策講座受講1名。 介護実務者研修講座受講1名。 随時個別ケース会議。 ヒアリング検証。 申し送りなど実施
評価・課題	専門職と相談連携を行い専門性が向上した。		

【障がい者(児)の支援】

① 障害者社会参加促進事業 (市受託事業)

目的 内容	障がい者が有する能力及び適正に応じ、日常生活又は社会生活を営むことができるよう地域の特性や利用者の状況に応じた事業を効率的かつ効果的に実施し、障がい者等の福祉の増進を図ります。																														
過年度 評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった																														
新年度の 方向性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討																														
事業(項目)	評価	方向性	実施内容																												
点字・声の広報等 発行事業	5	5	視覚障がい者の方に対して、地域生活をするうえで必要度の高い情報提供(公的機関広報報誌等)を定期的に行うことにより福祉サービスの活用や地域情報の周知を促し聴覚障がい者の社会参加促進を行った。 1. 点字訳: 広報うるま228部/社協だより76部/カレンダー19部 利用者数19名 2. 音声訳: 広報うるま173本/社協だより59本 利用者数15名																												
手話奉仕員養成 研修事業	4	5	聴覚障がい者とのコミュニケーションの支援者として期待される日常会話程度の手話表現技術を習得した手話奉仕員の養成を行った。 1. 受講者数: 19名(入門)*修了者数10名 2. 実施期間: 令和3年5月13日(木)～令和4年1月13日(木) (全18回) 3. 講師: 神田朋子(ろう講師)、喜屋武初美(聴講師) ※コロナ禍で40回講座を18回で修了、基礎講座の開催が中止。																												
福祉機器 リサイクル事業	5	5	不要になった福祉機器を再利用し、貸し出しを行う事により在宅療養者の日常生活のサポートと制度活用が困難な方々に対して応急的支援を行った。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>福祉機器</th><th>件数</th><th>地区内訳</th><th>件数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>車いす</td><td>163件</td><td>具志川地区</td><td>189件</td></tr> <tr> <td>松葉杖</td><td>6件</td><td>石川地区</td><td>28件</td></tr> <tr> <td>四点歩行器</td><td>26件</td><td>勝連地区</td><td>1件</td></tr> <tr> <td>シャワーチェア</td><td>18件</td><td>与那城地区</td><td>5件</td></tr> <tr> <td>ポータブルトイレ</td><td>10件</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>合 計</td><td>223件</td><td>合 計</td><td>223件</td></tr> </tbody> </table>	福祉機器	件数	地区内訳	件数	車いす	163件	具志川地区	189件	松葉杖	6件	石川地区	28件	四点歩行器	26件	勝連地区	1件	シャワーチェア	18件	与那城地区	5件	ポータブルトイレ	10件			合 計	223件	合 計	223件
福祉機器	件数	地区内訳	件数																												
車いす	163件	具志川地区	189件																												
松葉杖	6件	石川地区	28件																												
四点歩行器	26件	勝連地区	1件																												
シャワーチェア	18件	与那城地区	5件																												
ポータブルトイレ	10件																														
合 計	223件	合 計	223件																												

リフト付き福祉 バス運行事業	4	5	野外での移動が困難な障がい者等の外出支援のため、福祉バスを運行することにより、地域における自立生活及び社会参加の促進を行った。 1. 実利用者数：35名					
			利用内容（延回数）		障がい種別（延回数）		地区別（延回数）	
			病院受診等	371回	視覚障がい	21回	具志川	304回
			買い物等	29回	上肢・下肢障がい	292回	石川	37回
			視覚障がい者卓球	8回	聴覚障がい	24回	勝連	47回
			公共施設利用	12回	内部障がい	34回	与那城	37回
			その他	5回	脳卒中（片麻痺）	54回		
			介添え	68回				
			合 計	493回	合 計	425回	合 計	425回
要約筆記者派遣事業	5	5	意思疎通を図ることに支障がある障がい者等に、要約筆記等の方法により、障がい者とその他の方々の意思疎通を支援する要約筆記者の派遣を行った。 1. 要約筆記奉仕員：登録者数13名					
			派遣内容		件数	派遣人数		
			当事者活動（団体）		40件	9名		
			公的機関（訪問相談）		2件	（延派遣者数61名）		
			合 計		42件			
評価・課題	市内の障がい者の方々が地域で生活していくうえでの支援が拡充した。							

【母子・父子福祉活動】

① 一人親世帯等新入学児童激励事業の実施（自主事業） 財源：共募配分金

目的・内容	一人親世帯等の新入学児童に対して激励金を支給し、母子・父子世帯等の福祉向上に努めます。		
過年度 評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった		
新年度の 方向性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討		
事業（項目）	評価	方向性	実施内容
一人親世帯等新入 学児童激励事業	5	5	市内小学校、民生委員等と連携しながら、132世帯134名（令和2年度比161％）へ激励金の支給を行った。
評価・課題	長期化するコロナ禍の厳しい社会状況の中で、本事業への利用申請も大幅に増加し、必要な世帯の就学準備の一部として活用いただくことができた。 一方で、申請はあったものの、様々な理由で一人親の認定ができず、不支給とした事例が発生するなどの課題も残した。事例のような世帯は、児童扶養手当などの公的支援も対象外であり、大変厳しい状況が生じることも想定されることから、社協ならではの制度の狭間にある世帯に対応できる事業に向けて、内容を見直し検討する必要がある。□		

(5) 福祉団体育成活動支援（自主事業） 財源：共募配分金 社協会費

目的・内容	福祉団体の現状や課題を共通理解しながら、目的に沿って自主的・主体的活動を支援します。					
過年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった					
新年度の方向性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討					
事業（項目）	評価	方向性	実施内容			
福祉団体助成事業	4	3	活動助成金総額 2,878,000円 ①うるま市民生委員児童委員協議会 1,056,000円（共募） ②うるま市老人クラブ連合会 450,000円（共募） ③うるま市身体障がい者協会 450,000円（共募） ④うるま市母子寡婦福祉会 450,000円（共募） ⑤うるま市ボランティア連絡協議会 150,000円（共募） ⑥うるま市手をつなぐ育成会 222,000円（共募） ⑦うるま市更生保護女性会 100,000円（共募） ⑧うるま市福祉まつり実行委員会（コロナ禍の影響で開催中止のため交付なし）			

福祉団体助成事業 (うるま市自治会長連絡協議会)	4	4	うるま市自治会長連絡協議会 120,000円(法人)																																																											
福祉協力会助成事業	4	4	令和3年度は、規程及び様式の見直しを行った。 64ヶ所の各行政区福祉協力会へ助成を行い、各課と連携しながら活動支援を行った。各福祉協力会、地域ニーズに応じた工夫をこらした事業を展開した。																																																											
各団体の主体的活性化のための相談、助言	4	3	①うるま市老人クラブ連合会 コロナウイルス感染症拡大の影響により外出の機会や交流が減少する中で、老人クラブは仲間づくりを通して、生きがいと健康づくり「生活を豊かにする楽しい活動」を行うとともに感染防止対策を行ない、知識と経験を活かし地域の諸事業にも参加し支援を行った。																																																											
			<table><thead><tr><th>団体名</th><th>活動内容（主催事業等）</th><th>参加人員</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="5">うるま市老人クラブ連合会</td><td>役員会（4回）</td><td>延参加者 11名</td></tr><tr><td>理事会（1回）</td><td>延参加者 13名</td></tr><tr><td>歳末チャリティーGG大会並びに市老連資金造成GG大会</td><td>延参加者 12名</td></tr><tr><td>市老連役員選考委員会</td><td>延参加者 7名</td></tr><tr><td>市・中部・県事業への参加（3回）</td><td>延参加者 12名</td></tr><tr><td rowspan="4">市老人クラブ連合会</td><td>役員会（4回）</td><td>延参加者 16名</td></tr><tr><td>評議員会（3回）</td><td>延参加者 78名</td></tr><tr><td>専門部会（10回）</td><td>延参加者 名</td></tr><tr><td>歳末チャリティーGG大会並びに市老連資金造成GG大会</td><td>延参加者 300名</td></tr><tr><td rowspan="2">具志川支部</td><td>支部大会</td><td>延参加者 4名</td></tr><tr><td>市・中部・県事業への参加（2回）</td><td>参加者 10名</td></tr><tr><td rowspan="2">市老人クラブ連合会</td><td>役員会（11回）</td><td>延参加者 33名</td></tr><tr><td>評議員会（9回）</td><td>延参加者 163名</td></tr><tr><td rowspan="2">石川支部</td><td>新入学1年生交通安全お守り配布（配布：3校274個）</td><td>女性委員 7名</td></tr><tr><td>新年度朝のあいさつ運動（3小学校・2中学校）（1回）</td><td>延参加者 83名</td></tr><tr><td rowspan="2">市老人クラブ連合会</td><td>役員会（5回）</td><td>延参加者 14名</td></tr><tr><td>評議員会（5回）</td><td>延参加者 35名</td></tr><tr><td rowspan="2">勝連支部</td><td>支部ゲートボール大会</td><td>延参加者 22名</td></tr><tr><td>歳末チャリティーGG大会並びに市老連資金造成GG大会</td><td>延参加者：49名</td></tr><tr><td rowspan="4">市老人クラブ連合会</td><td>役員会（8回）評議員会（9回）</td><td>延参加者 46名</td></tr><tr><td>歳末チャリティーGG大会並びに市老連資金造成GG大会</td><td>延参加者 51名</td></tr><tr><td>与那城支部大会</td><td>延参加者 4名</td></tr><tr><td>与那城支部</td><td>新入学1年生交通安全お守り配布（配布：2校120個）</td><td>女性委員 4名</td></tr><tr><td></td><td></td><td>市・中部・県事業への参加（4回）</td><td>参加者 10名</td></tr></tbody></table> ②うるま市身体障がい者協会 ・第15回定期総会 令和3年5月19日(水)＊書面決議 ・第4回市障がい者運動会 令和3年8月1日(日) 具志川陸上競技場 ③うるま市母子寡婦福祉会 ・母と子の楽しいクリスマス会 令和3年12月13日(土) うるみん 3階ホール ・うるま市母子会ランドセル贈呈式 令和4年2月6日(日) うるみん2階 第1・2会議室	団体名	活動内容（主催事業等）	参加人員	うるま市老人クラブ連合会	役員会（4回）	延参加者 11名	理事会（1回）	延参加者 13名	歳末チャリティーGG大会並びに市老連資金造成GG大会	延参加者 12名	市老連役員選考委員会	延参加者 7名	市・中部・県事業への参加（3回）	延参加者 12名	市老人クラブ連合会	役員会（4回）	延参加者 16名	評議員会（3回）	延参加者 78名	専門部会（10回）	延参加者 名	歳末チャリティーGG大会並びに市老連資金造成GG大会	延参加者 300名	具志川支部	支部大会	延参加者 4名	市・中部・県事業への参加（2回）	参加者 10名	市老人クラブ連合会	役員会（11回）	延参加者 33名	評議員会（9回）	延参加者 163名	石川支部	新入学1年生交通安全お守り配布（配布：3校274個）	女性委員 7名	新年度朝のあいさつ運動（3小学校・2中学校）（1回）	延参加者 83名	市老人クラブ連合会	役員会（5回）	延参加者 14名	評議員会（5回）	延参加者 35名	勝連支部	支部ゲートボール大会	延参加者 22名	歳末チャリティーGG大会並びに市老連資金造成GG大会	延参加者：49名	市老人クラブ連合会	役員会（8回）評議員会（9回）	延参加者 46名	歳末チャリティーGG大会並びに市老連資金造成GG大会	延参加者 51名	与那城支部大会	延参加者 4名	与那城支部	新入学1年生交通安全お守り配布（配布：2校120個）	女性委員 4名	
団体名	活動内容（主催事業等）	参加人員																																																												
うるま市老人クラブ連合会	役員会（4回）	延参加者 11名																																																												
	理事会（1回）	延参加者 13名																																																												
	歳末チャリティーGG大会並びに市老連資金造成GG大会	延参加者 12名																																																												
	市老連役員選考委員会	延参加者 7名																																																												
	市・中部・県事業への参加（3回）	延参加者 12名																																																												
市老人クラブ連合会	役員会（4回）	延参加者 16名																																																												
	評議員会（3回）	延参加者 78名																																																												
	専門部会（10回）	延参加者 名																																																												
	歳末チャリティーGG大会並びに市老連資金造成GG大会	延参加者 300名																																																												
具志川支部	支部大会	延参加者 4名																																																												
	市・中部・県事業への参加（2回）	参加者 10名																																																												
市老人クラブ連合会	役員会（11回）	延参加者 33名																																																												
	評議員会（9回）	延参加者 163名																																																												
石川支部	新入学1年生交通安全お守り配布（配布：3校274個）	女性委員 7名																																																												
	新年度朝のあいさつ運動（3小学校・2中学校）（1回）	延参加者 83名																																																												
市老人クラブ連合会	役員会（5回）	延参加者 14名																																																												
	評議員会（5回）	延参加者 35名																																																												
勝連支部	支部ゲートボール大会	延参加者 22名																																																												
	歳末チャリティーGG大会並びに市老連資金造成GG大会	延参加者：49名																																																												
市老人クラブ連合会	役員会（8回）評議員会（9回）	延参加者 46名																																																												
	歳末チャリティーGG大会並びに市老連資金造成GG大会	延参加者 51名																																																												
	与那城支部大会	延参加者 4名																																																												
	与那城支部	新入学1年生交通安全お守り配布（配布：2校120個）	女性委員 4名																																																											
		市・中部・県事業への参加（4回）	参加者 10名																																																											
評価・課題	コロナ禍で各種団体とも屋外の活動を重点にコロナウイルス感染症防止対策を徹底し活動を行った。																																																													

(6) 災害時の支援体制づくりの推進（自主事業） 財源：社協会費・寄附金・共募配分金

① 災害時支援体制の整備

目的・内容	うるま市防災計画に位置付けられた社協の役割について、行政との協議を踏まえ明確にするとともに、災害時の対応について職員の意識を高め、自治会や事業所、地域住民や団体、企業と連携できるよう体制づくりを進めていきます。		
過年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった		
新年度の方角性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討		
事業（項目）	評価	方向性	実施内容
行政との連携	2	5	①地域の防災組織の強化をテーマに平時からの地域福祉活動組織を展開したいと希望する自治会の出前講座について、市福祉政策課と連携し実施した。（地域の要配慮者支援の必要性や平時からの地域づくりの必要性についての学習機会の提供） ②防災研修の合同参加と情報の共有(ADI減災カフェ)
災害時対応マニュアルの活用と職員への意識づけ	2	5	研修及び訓練の実施なし
自主防災組織と連携した見守り活動の提案	4	5	出前講座、ワークショップを活用した住民組織との各地区の実情の共有や見守り活動の推進を図った。
災害・防災備品等整備事業の実施	1	5	実施なし
評価・課題	災害時対応マニュアルの活用や災害ボランティアセンターの立ち上げに向け、必要な研修・訓練を実施する。		

(7) 歳末たすけあい募金配分事業（自主事業） 財源：歳末たすけあい募金

目的内容	歳末に、生活困窮世帯や一人暮らし高齢者世帯など、支援を必要とする世帯に義援金の配布や行事食お届けサービスをとおして、地域で温かいお正月を迎えられるよう取り組みます。また、法外援助等で制度の狭間にある生活困窮世帯に必要な資金を給付することで生活再建を支援します。		
過年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった		
新年度の方角性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討		
事業（項目）	評価	方向性	実施内容
義援金給付事業	4	3	給付世帯数(人員数)：890世帯(2,216名) 令和2年度比120%
行事食お届けサービス事業	4	3	配布世帯数(人員数)：255世帯(354名) 令和2年度比89.1%
法外援助事業 ※再掲	5	3	公的制度や、その他必要な援護を受けることが困難または緊急に援護を必要とする低所得世帯（者）等に対し、緊急かつ一時的な食費や生活費、医療費等を給付することで、当面の生活を確保し、関係機関とともに相談者の生活再建の支援を行った。 生活支援(1件) 災害見舞金(0件)
評価・課題	新型コロナウイルスの影響により、生活困窮世帯の増加に伴い、義援金の申請が予想を上回る状況で、行事食お届けサービスから義援金への移動が見られました。今年度は、世帯の基準額を調整し支給いたしましたが、今後も増加が予想されるため、歳末たすけあい募金運動を充実強化を図ります。		

(8) 業務推進体制の構築及び専門職員等の人材確保と質の向上（自主事業）

財源：社協会費

① 事業評価及び組織体制等の見直し

目的内容	効率的な事業を推進するため、必要に応じた組織体制の再編成や人員配置及び事務分掌について、見直しに向けた検証を進めます。 また、職員の質の向上を図るため、必要な知識・技能習得に必要な研修会参加を推進し、組織体制の強化に努めます。		
過年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった		
新年度の方角性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討		

事業（項目）	評価	方向性	実施内容
事業評価及び組織体制等の見直し	2	4	1. 第1回法人機構改革検討委員会 日時：令和3年11月24日（水） 内容：①委嘱状交付②会の趣旨説明 第2回法人機構改革検討委員会 日時：令和3年12月20日（水） 内容：委員研修「社会福祉法人の自主財源確保の方策」 講師：上地武昭氏（おきなわ地域福祉研究会会長・沖縄大学名誉教授） 第1回事務局整理検討作業部会 日時：令和3年11月24日（水） 内容：1. 社協の事業概要説明 2. 今後の協議の進め方について 第2回事務局整理検討作業部会 日時：令和3年12月20日（水） 内容： ①法人の財源について「講話を振り返って」 ②法人事務局の整理検討に ア) 支所機能の整理について 南城市・八重瀬町の事例 石川・勝連支所の状況確認（支所経費、利用頻度等） 地域との話し合いの持ち方について イ) 課・係の在り方（総務課業務）について ③今後の新規事業への取組について ④共同募金の在り方 第1回福祉バス運営検討作業部会 内容： ① これまでの使用状況及び現状報告 ②課題検討 第1回通所介護事業所検討作業部会 ①作業部会における課題検討の進め方 ②与那城支所の事業概要報告 2. 懲戒審査委員会の実施 全7回（3件） ハラスメント事案1件 職務怠慢事案2件
業務調整会議、連絡会等の実施	2	5	①市内各種相談支援従事者の連絡会（地域カンファ）を推進し、関係者ネットワークと他職種連携の体制の基盤を構築した。 ②地域福祉の推進に必要な考え方や情報の共有と連携を目的に、うるま市福祉部との定例連絡会を実施した。 ③子ども支援ネットワーク会議を継続的に実施し、子ども支援と支援に必要な環境整備に取り組んだ。 ④うるま市の大きな課題である失業率の高さ（生活困窮）と社会福祉法人等事業者の人手不足の課題を各種関係機関と共有し、労協協働でのうるま市の雇用の創出を推進した。
社会福祉士、精神保健福祉士等の専門職員の採用	5	4	新規採用 主事（社会福祉士）1名 非常勤職員（社会福祉士）4名
資格取得支援	3	4	社会福祉士短期養成専門学校通信講座1名 社会福祉士短期養成専門学校新年度入学に係る入校支援1名
職員学習会・研修の機会の提供（実施・派遣）	2	5	職員研修 1月27日予定（メンタルヘルスセルフケア研修） コロナ感染症の増加に伴い延期（令和4年度へ）
苦情解決の体制づくり	2	3	苦情解決に関する設置規程に基づき、第三者委員の任期満了に伴う選任を行った。 委員数3名 堀 晋輔 学識経験者（司法書士） 伊計 昇明 社会福祉士□ 金城 百合子 学識経験者□
評価・課題	役職員体制も一新し、新体制の下で現状の法人の課題に係る整理検討を行うため、本会理事を中心に法人機構改革委員会を設置できたことは大きな一歩であった。 一方で、ハラスメントや職務怠慢等による懲戒処分も3件発生した。長きに亘り抱えていた課題を整理検証し、改善を図っていくことで、社協の本務である「うるま市の地域福祉」に邁進できる引き続きの努力が必要である。		

(9) その他の事業 (自主事業)

財源：社協会費・寄附金

目的 内容	社協が行う各種事業を実施することで、地域福祉の推進と住民への福祉サービスの充実に必要な環境整備等を行 う。													
過年度 評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった													
新年度の 方向性	5. 強化・推進 4. 現状継続 3. 見直し 2. 縮小 1. 廃止に向けて検討													
事業（項目）		評価	方向性	実施内容										
与那城社会福祉セ ンターの管理運営		5	4	令和３年度 与那城社会福祉センターの利用及び料金の実績										
				区分	利用回数	利用時間	利用人数	利用料金	備考					
				行政関係	24回	36時間	178人	16,500円	介護長寿化事業（通所型サービスＡ） クーラー使用料（33時間×500円）					
				市内福祉団体	330回	2,496時間	5,242人	免除	社協関連事業名等			回数	時間	人数
									社協事業			0	0	0
									ミニデイサービス			0	0	0
									民生委員			8	11	30
									老人クラブ			12	15	36
									ボランティア団体			1	1	3
									相談支援			0	0	0
									デイサービス			308	2,468	5,168
				居宅介護支援			1	1	5					
				一般市民 （個人・団体）	2回	3時間	60人	0円	個人・団体時名等合計			回数	時間	人数
												2	3	60
市内	屋敷名区行事	1	2						25					
一般市外	0回	0時間	0人	0円	内訳	その他		1	1	35				
						市 外		0	0	0				
合計	356回	2,535時間	5,480人	16,500円	うるま市社会福祉センター条例第23条によ る免除									
福祉バスの貸出し	1	3	石川支所 1 台バス 緊急事態宣言のため、貸出し停止。 貸出し再開にあたり車両の老朽化に伴う雨漏り、外装の腐食等の症状が発生し、 現在まで貸出し休止中。											
各種調査活動の実 施	1	5	調査実施：1件 重層的支援体制整備事業に資するコミュニティソーシャルワーカー及びボランティアセン ターの配置と処遇に関する市町村社協状況調査 調査協力：4件 コロナ禍における生活困窮者支援の状況調査 市町村社協と子どもの居場所連携状況調査 自立支援金に関する緊急調査 日常自立支援事業状況調査 他											
相談援助実習の受 入れ（大学生等）	5	4	県内大学や専門学校の学生の社会福祉士及び精神保健福祉士相談援助実習の受け入れを行っ た。また、実習指導者の要件を満たす職員の実習指導者講習等の受講を推進した。 ・社会福祉士相談援助実習：5人（沖縄大学、沖縄国際大学、琉球リハビリテーション学院、沖 縄総合医療学院） ・精神保健福祉士相談援助実習：1人（日本福祉大学） ・実習指導者講習受講：1人											
職場体験学習の受 入れ	1	4	実施なし。											

その他、福祉に関する必要な事業等への協力及び実施	2	5	1. 子供の居場所ネットワーク連絡会（県社協協働） 2回 1回目 令和3年9月2日（木）10時～12時 参加者8名 2回目 令和3年12月13日（月）10時～12時 参加者11名 2. 社会福祉法人の公益的取り組みに向けた取り組み ・うるま市就労プロジェクト（会議）4回 ・うるま市「福祉のお仕事・就活応援フェア」 令和4年3月25日（金） 13時～16時 主催：社協 うるま市パーソナルサポートセンター 就活サポートであえ〜る 参加者：社会福祉法人 9法人 3. 沖縄県災害派遣福祉チーム（DWA Tおきなわ）への登録及び派遣 職員3人がDWA Tおきなわチーム員登録・養成研修を受講し、チーム員として登録した。 その後、沖縄県の要請により、新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した市内施設（2か所）の現地対策本部の応援（ロジ業務）としてチーム員を派遣した。 ・チーム員登録：3人 ・派遣期日：R4. 1. 27～1. 31、R4. 2. 22 ・派遣人数：延6人 4. うるま市社会福祉大会代替企画講演会 オンライン講演会 「いのちの授業」～やなえもんがみた現実～ 講師 やなえもん 令和4年3月2日（水）14時～16時 Zoom配信 参加者 70名
評価・課題	令和3年度、役職員体制も一新し、法人の機構改革や業務の見直しを行いつつ、現状の地域に必要な新たな取り組みを模索しながら、各種関係団体、市民活動者との協働による事業実施を試みる事ができた。また、沖縄県災害派遣福祉チームDWA Tおきなわの養成研修に3名の職員を派遣し、チーム員登録を行うとともに県からの要請により市内新型コロナウイルス感染症のクラスター発生施設に職員派遣を行ったことは、今後の市内災害応援協定等の重要な視点の習得となった。新年度以降も市内福祉法人を中心とした多様な連携体制の構築強化を目指し、様々な試みを展開したい。		